農繁期レポート

令和8年　8月号

ニールファーム

オーナー	株式会社G-7新流
産　地	三重県伊賀地区
水田面積	9.0アール
保 証 量	玄米252kg
形態品種	コシヒカリ（有機JAS認証）





生産者　㈱ツーライフ農園：北出　茂樹さん

お世話になっております。田の上をトンボが飛び交う季節となり、いよいよ稲刈りの時期を迎えました。
当地区では本日（8月23日）より稲刈りを始められた方もおり、私自身も来週早々より作業を開始する予定です。
オーナー様の圃場は田植え時期をずらしたこともあり、収穫は2～3週間ほど先になりそうですが、連日の暑さの中で草刈り作業が大変になってきています。生育は全体として順調に進んでおり、穂はまだ青いものの、徐々に垂れ始めてまいりました。圃場によっては穂先が枯れ始めている箇所も見受けられます。今年は高温の影響もあり、カメムシの発生が例年より少なく、計画的に防除を進めたものの、ドローンによるイモチ・カメムシ薬剤散布を省略した圃場もあります。そのためか、一部ではイモチ病の発生が確認されております。8月に入り、台風の影響もあり水量が十分に確保されており、安定した状況が続いております。電気柵を張り巡らせた圃場では、イノシシ・シカによる被害は発生しておりません。一方で、電気柵のない圃場では畔が掘り返され、畔草刈り作業に支障が出ている状況です。稲刈りも残すところ約1か月となりました。最後まで気を抜くことなく、丁寧な管理と適切な情報提供に努めてまいります。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

8月の作業内容等

1.カメムシ対策（有機）

カメムシは、柔らかい籾から汁を吸う害虫です。被害粒は黒色や茶色の斑点が生じ、食感や風味の低下、品質や等級の低下につながります。土づくりに籾がら焼却灰などを使用し、籾殻を強固にしたり、天然由来の樹液から作られた液を撒いて寄せ付けないようにします。



天然由来の樹液の一例
（JAS認証対応）

2.イノシシ対策

田んぼの周囲に電気柵や金属フェンスを設置して侵入を防いでいます。設置後は、設備に破損がないかを定期的に確認し、雑草が電線に触れないよう周辺の草刈りも行います。実際に電気柵のメンテナンスを欠かさない圃場では被害が出ていません。



綺麗に整えた電気柵周辺

3.いもち病の対策

代表的な稲の病気で、感染した種子や稲わら、籾殻などが翌年の感染源となることがあります。完全に感染を防ぐことは難しいため、稲が健全に育ち、いもち病が発病・拡大しにくい環境を整えることが大切です。籾殻を強くする対策はカメムシ対策と共通する部分があります。



葉いもち



いもち病で枯れた圃場

4.収穫準備

収穫に向けた準備として、コンバインや乾燥機など収穫機械について、故障やトラブルを防ぐため、各部の点検・清掃・整備を行います。あわせて、稲刈りを円滑に行えるよう、田んぼ周辺の草刈りや排水状況も確認します。収穫までに、安全で効率的な作業に向けて準備します。



収穫機械の準備

水田オーナーズクラブ
suiden owner's club